



### ケーブル前処理

1. 遮蔽用ホイルを切らないように、外被をむきます。外被をむいた部分から約25.4mm遮蔽用ホイルを残します。(図1参照)
2. 遮蔽用ホイルを傷つけないように折り返します。折り返した部分を約9.53mm残します。(図2・3参照)
3. ドレイン線も折り返します。プラグに挿入する際に、ドレイン線がストレインリリーフ側ではなく、タブ側になるよう注意してください。(図4参照)

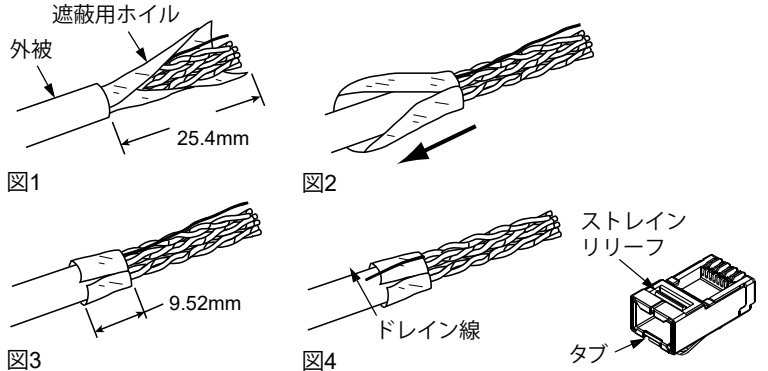
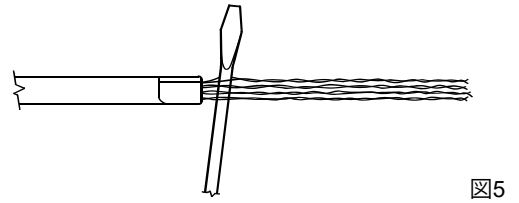


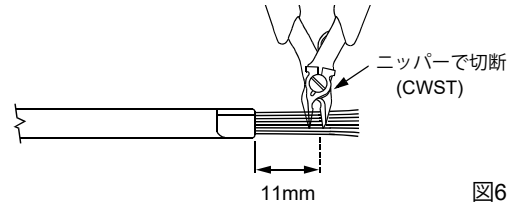
表1

結線仕様 挿入順番表		
	T568A	T568B
1	白/緑	白/橙
2	緑	橙
3	白/橙	白/緑
4	青	青
5	白/青	白/青
6	橙	緑
7	白/茶	白/茶
8	茶	茶

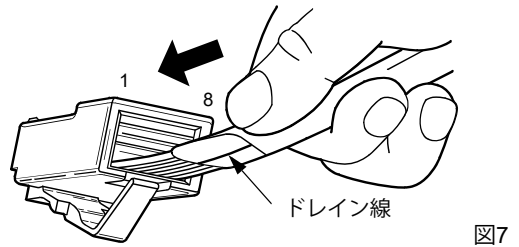
4. 外被覆端を25.4mmほど剥き、導線の撚りを真っ直ぐに伸ばす。外被覆の中まで撚りを戻さないこと(図5参照)



5. 左の挿入順番表を参照しながら導線の順番を整え、外被覆端から11mmの所で導線を切断する(図6参照)

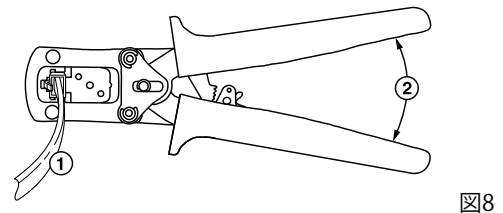


6. 図のように導線を挿入する側を手前にし、ラッチ部を下に向けて左側を1番ピンにする。挿入順番を確認して、慎重にしっかりと奥まで挿入する(図7参照)



7. 圧着工具 (MPT5-8AS)

1. プラグを工具に装着する
2. ハンドルを引き寄せ、ロックが解除されるまで適度な速さで強く握りしめる(図8参照)



### 注意事項

1. 成端には圧着工具 (MPT5-8AS) を使用してください。
2. 導体絶縁径が0.89mm~1.02mmまでの24~26AWGの単線および撚り線を使用できます。
3. TIA/EIA 568C施工ガイドラインに沿った施工を行ってください。

全てのワイヤリングアクセサリと同様に、下記の概念に従ってください。

1. 雷や嵐の中では通信ケーブルの施工は行わない。
2. 特に水場で使用できるように設計されたコネクタを除き、濡れた場所での通信ケーブルの施工は行わない。
3. 通信ラインがネットワークインターフェースから切り離されている時以外は、導線や端子を手で触れない。
4. 通信ケーブルの施工や修理の際には警告文をよく読み、行ってください。